



海はないけれど 川の国 埼玉…!!

埼玉県は、「海なし県」です。でも、鴻巣市と吉見町の間を流れる荒川の川幅は 2,537m あり、日本一です。また、県土に占める河川の面積割合が 3.9 %で全国 2 位、水辺（河川、湖沼、農業用水等）の面積割合は約 5 %で全国 4 位です。埼玉県は、多くの水辺空間がある「川の国」です。県は、人口減少や少子高齢化などの社会経済情勢の変化によって、成長型社会から成熟型社会へと移行する中、水辺を県民のゆとりと安らぎを創出する貴重な空間と位置付け、その豊かな環境を再生し、誰もが川に愛着を持ち、ふるさとを実感できる「川の国 埼玉」を実現するため、「川の再生基本方針」を定めています。また、国（国土交通省）は「多自然川づくり」基本方針を定め、河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史、文化との調和にも配慮した河川管理を行うこととしています。時世に合った「里川」の再生です。これらは、与えられるものではなく、「こんな川にしたかった！」という地域住民の願いと行動が大切とされます。

今、和田吉野川の護岸工事が最終段階を迎えています。大里・吉岡地区の水害防止を第一の目標としながらも、一部は自然（雑木林、鳥や魚などの水生生物）との調和も図られてきました。ただ、全体的には、コンクリート護岸や人が立ち入れないフェンスが目立ち、時代に逆行する昭和の遺物「排水路」のように見えてしまうのは、残念です。これでは、川辺でジャブジャブ犬の水遊びはできない、石を積んで小魚を呼ぶ川遊びはできない、カワセミは住みかを追われるかもしれません。残念です。

里山の2月の活動は、2月9日（日）に行われました。小林市長様、埼玉新聞タウン記者栗原様をお招きして、落ち葉集めと焼き芋会を行いました。自治会の皆様、立正大学関係者、中学校関係者、個人ボランティア、吉中クリーンアップ活動（生徒会主催の学校周辺のゴミ拾い）に参加した中学生など普段の倍以上の参加者が、アツアツの「紅はるか」の甘い焼き芋を堪能しました。



写真担当 立正大学生

次回活動日

3月9日（日） 9:00～

里山整備を予定（吉中駐車場集合）



落ち葉集め



焚き火



アツアツの紅はるか

フェンスに囲まれた八幡坂東側



現在工事中の八幡坂西側



県HPより

散歩道の鳥たち



by Mr. Terayama

前号で紹介した寺山氏より新たな写真をご提供いただきました。一部を紹介します。
尚、最近は、「後継者」と呼ばれたM氏が、極寒の早朝から熱心に撮影を続けています。

ノスリ



ノスリ（鴯）は、鳥類タカ目タカ科ノスリ属の一種。シベリア、モンゴル、中国、日本に棲息する。日本では、北海道、本州中部以北、四国の山地で繁殖し、ここでは留鳥である。また、全国に冬鳥として飛来する。全長 50-60cm。翼開長 100-140cm。背面は褐色、腹面は淡褐色の羽毛に覆われる。喉の羽毛は黒い。樹上からの狩りの際に、野を擦るような地表すれすれを飛行する（野擦：のすり）。人里近くにも生息するため、環境破壊の影響を受けやすく、生息数は減少している。

（ウィキペディアより）

シラサギを狙うキツネ

